柏

末知何據、皮是榧之別種、皮厚、子不耐食、俗呼大榧者是也、又倭俗以槇字訓麻幾、槇字未載字書、和邦所製也、金松之名出于天台山外志、葉皆帶黃色、結子如松梂、故有松之名、

〔紀伊續風土記 物產六上〕金松（マキ）西陽雜俎、和名抄末木、披の字を用ふるは非なり、披は杉の一名なり、新撰字鏡槇をマキと訓ず、眞木の字を二合したるなり、又萬葉集に眞木とあるは、多く扁柏をよめるなり、此マキにあらず、今も木曾にては扁柏をマキといふと聞けり、

高野山の名品なるをもて、俗に高野マキといふ、一山の林中に多く、中にも、奥院、山の南蓮花谷、五大堂より七八町許、東峯の尾に數千の金松森々として、中には一根に數十本叢生して、竹葦の生ずるが如きもの多く、千本槇といふ、空海の手づから植うる所といひ傳ふ、其材大なるは、堂宇或は器物に作りて一山の用を足し、其木皮を剝ぎて繩に綯ひ、諸國に運送して利益を得る事大なり、

〔日光山志 五〕金松樹　御厩の傍にあり、實は本槇と稱するものなり、石玉垣の内にあり、是は弘法大師高野山より移されし種なりといふ、周廻一丈餘、枝葉垂て茂生せり、

〔倭名類聚抄 二十木〕柏　兼名苑云、柏一名椈、百菊二音、和名加閉、

〔箋注倭名類聚抄 十木〕本草和名引同、按、爾雅云、栢、椈、兼名苑蓋本於此、那波本栢作柏、非是、於果蓏部辨之、〇略中　說文、栢、鞠也、鞠椈正俗字、郝曰、柏有脂而香、其性堅緻、材理最美、

〔倭漢三才圖會 八十夷果 八〕榧〇略中

倭名抄以柏爲榧異名、而柏與栢同字、故俗多以栢爲榧訓、用皆其誤起于和名抄、柏卽松柏之柏也、其木葉似榧而異、

〔撮壤集 中木〕栢（カヤ）

〔書言字考節用集 六生植〕栢（カヤ）作柏、義同、一名椈、事詳本草、但與榧不同、

〔倭訓栞 前編六加〕かへ　日本紀に柏をよめり、香重の義なるべし、倭名鈔同じ、今かへと名くる物なし、松柏とならべ稱するによれば、今世、側柏、扁柏、圓柏、混柏、仙柏の類すべていふ成べし、倭名鈔に